臨床栄養部（総合心療センター）

主任　川﨑　麻由

人事

総合心療センターでは入院患者 60 床、外来患者約 50 名に対して 1 名の管理栄養士が常駐している。

業務・取り組み

病棟栄養管理業務（食事・経腸栄養・点滴の調整やの食事相談）、外来栄養食事指導やパティオでの食育講師を継続し、職員向けの栄養についての勉強会を担当した。

食数

2022 年も稼働率の低迷が続き、1 食平均提供食数は 42.8 食と少なかった。その内訳として、大きな変化は無かったものの、特別食加算数が昨年より 3%（1174 食）減少（=89,224 円減収）し、代わりに全粥食や嚥下食を含めた非加算の食数が合計で 3.1%（1576 食）上昇していた。生活習慣病のコントロールより、摂食・嚥下機能を重視した栄養管理が必要な患者が増加した可能性が考えられる。今後も、誤嚥・窒息といったリスクに加え、精神症状も考慮した、適正な食事提供への取り組みを継続していく。

表 1 給食状況報告

年間食種別食数			
一般食	常食	27,544 食	58.7%
	全粥･流動･分粥	5,010 食	10.7%
特別食	加算	10,945 食	23.3%
	非加算（嚥下食含む）	2,956 食	6,3%
濃厚流動食		450 食	1.0%
合計		46,905 食	100.0%

栄養食事指導件数

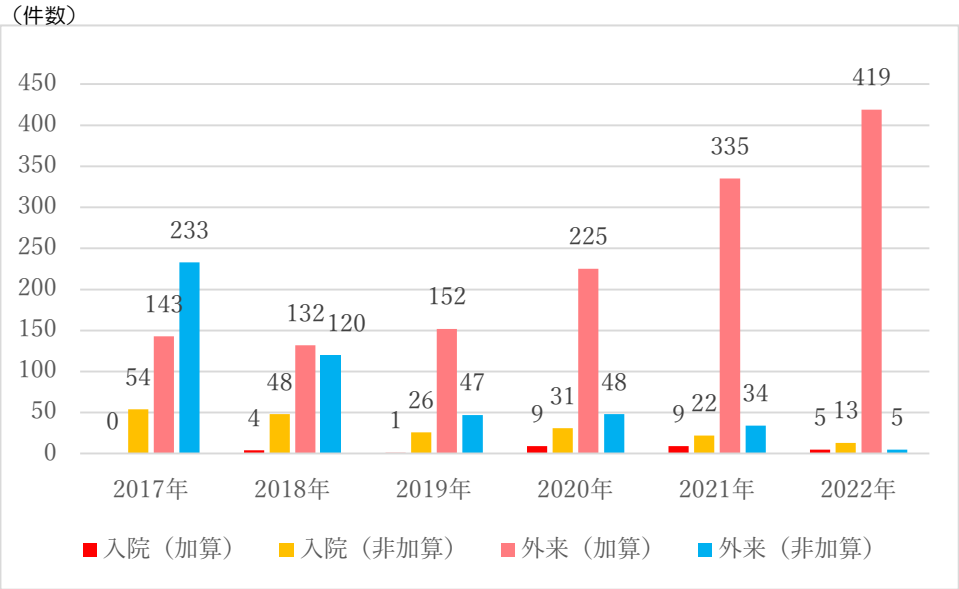
入院栄養食事指導件数は、例年通りであった。

外来栄養食事指導件数は､退院時に定期的な外来栄養指導計画を立てる取組みを続けた結果、加算対象の指導件数は上昇した。身体所見の改善により介入終了となるケースもあったが、新規の導入数が 1 年間で約 20 名程度を維持していた事が件数上昇の理由の一つと考える。

また、栄養指導の構造の見直しを行い、食生活の乱れと精神的ストレスが密に関係し合っているという視点を持ち、今まで以上に患者の気持ちに耳を傾け、傾聴・共感する姿勢をとり、信頼関係の構築を意識して関わった。その結果、外来栄養指導患者約 50 名の中、生活習慣病のコントロール改善や減量を目的とするケース 28 名の内 15 名は､2～12 ヶ月間で 0.4～17.3kg（平均－6.2kg）の減量に成功した。13 名は 0.2～6.2kg（平均+2.9kg）の増加をしていたが、28 名全体としては BMI33.8→33.0 という結果であった。

精神科の担当管理栄養士として、患者の心と体の支えになれるような取組みを、今後も続けていきたいと考える。

図１　栄養食事指導件数


（件数）
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
0
54
143
233
4
48
132
120
1
26
152
47
9
31
225
48
9
22
335
34
5
13
419
5
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年
入院（加算）
入院（非加算）
外来（加算）
外来（非加算）